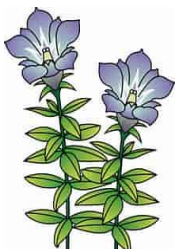




<大豊作！ クリの収穫>



## Contents



ホームページでは、**カラー**で見ることができます  
URL <http://www.naranature.com>

ならやまプロジェクト	1	字遊字感-子ども工作教室-	8
Monthly Repo ならやま	2	病害虫講座-くり-	9
里山の今 (エコ・景観)	3	Galleryならやま	10
里山で遊ぼう (2) レポ	4	行事案内-1	11
自然観察会 (歌姫街道) ・レポ	5	行事案内-2	12
わくわく！ドキドキ！お山を歩こう！レポ	6	幹事会報告・編集後記	13
私の子猫のミルクボランティア	7		

# ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず  
あなたも私も・力合わせて

コロナ禍も少し落ち着きを見せ、酷暑からも解放されて、9月15日から一日活動に戻った。けれども、半日活动に慣れたためか、15時までの活動がつらく感じられる人が多いようで、終礼時刻まで残っている人が少なくなっている。「無理をせず」が基本の活動ではあるが、参加者の安全を確認するためにも、終礼の大切さも再認識する必要がある。できるだけ、みんなで始めてみんなで終わる、一体感のある活動にしたいものだ。

10月には県外からも多くの参加者を迎える朝日親と子の自然環境教室をはじめ、稲刈り体験学習や芋ほりイベントと盛りだくさんの行事が予定されている。自分たちの活動はもとより、安全には十分に気をつけながら、参加した子どもたちにはいい思い出を持ち帰ってほしい。

忙しい月ではあるが、暑さも過ぎてほっと一息、気持ちをゆったりと持って、実りの秋をみんなで心行くまで味わいたい。

## 10月の活動特記事項

10月6日(木)：協働活動(アダプトプログラム・平城宮跡東側草刈り)

10月13日(木)：佐保台小学校稲刈り体験学習

10月16日(日)：朝日親と子の自然環境教室(降雨確率50%以上10月23日(日)に順延)

10月29日(土)：芋ほりイベント(降雨確率50%以上11月5日(土)に順延)

## 10月の各グループ活動予定

グループ	活動予定
里山	里山林内整備、薪割り、下草刈り、イベント準備 ユート：アカマツの森でのマツの間伐・整理
エコファーム	稲刈り(朝日親と子の自然環境教室・佐保台小体験学習) 葉野菜手入れ(除草・間引き・施肥)、畑整備(除草・耕耘、ナス畑の撤去) 芋ほり(佐保台小放課後教室+会員関係者)
景観	整備：佐保自然の森・BC周辺草刈り、養蜂巣箱の整備、竹林整備事前調査 平城宮跡東側草刈り ビオ：西池改修、水路・木道整備、水生生物調査 花：山野草園、アジサイ園、自転車道沿い花壇草取り
パトロール	1~3コースパトロール、観察路整備、笹草刈り、 樹木銘板作り、イベント準備
果樹	実りの森除草・剪定枝の整理、キウイ棚設置

活動日：毎週木曜日 9:00~15:00

前日の19時現在の気象庁予報(NHKTV奈良 19時前放送)の天気予報で、奈良県北部の午前中の降雨確率60%以上の場合は翌日、翌日も同予報であれば中止



## Monthly Repo. ならやま

富井 忠雄

8月25日(木) 晴 64名+1名

シニア自然大学校より1名の参加があった。27日のイベントの準備と打ち合わせを実施。里山Gは里山林のNo.9区画の整備、伐倒と枝葉の処理、遊びの森のイベント用遊具の点検を実施。エコGは各畑の草刈り、落花生、人参などの除草、ナスなどの収穫。景観GはBC周辺の草刈り、整備とイベントの準備。花班は山野草園の草引きなど。ビオ班はタナゴ、ドジョウ池のザニガニ駆除、イベントの準備。パトロールGは観察路の草刈り、竹杭作り、イベントの準備。果樹Gは実りの森の除草、グループの打ち合わせなどを行った。

8月27日(土) 晴 親子28名+30名会員

Green Gift 協賛のイベント「夏だ！ 休みだ！ 里山で遊ぼう！」を実施した。



9月1日(木) 雨 24名

前日の降水確率が50%の為、活動日となったが参加者は少なく、24名となった。里山Gはグループミーティングで今後の林内整備、高齢化、人材不足など話し合った。また、イベントの準備を行う。花班は花の名札書きと名札建てなど。ビオ班はタナゴ、ドジョウ池のザニガニ駆除、第一駐車場西側の水路整備。パトロールGは雨の為四阿でミーティングとエントランス広場花壇のコスモスの撤去。果樹Gは雨の為、作業は中止し、花班の名札書きを手伝った。

9月8日(木) 曇り 67名+2名

夏時間の活動は今日まで。朝日親と子の自然環境教室の実施要領についての打ち合わせのためシニア自然大学校から2名来訪。

里山Gは遊びの森の一部片付け、里山林のNo.9区



画の整備と伐倒、処理、下草刈り、薪割りを実施。エコGはナス畑などのネット張り、大根の種播き、ナスなどの収穫。景観Gは彩の森、第一駐車場、緑陰広場の草刈り。花班はジャーマンアイリスの草引きなど。ビオ班は、西池の水生物調査、タナゴ、ドジョウ池のザニガニ駆除と草刈りを実施。パトロールGは1コースのパトロール、倒木処理、イベント準備など。果樹Gは栗の収穫、実りの森の除草などを行った。

9月15日(木) 晴 65名+近大生3名

17日のイベントの準備と打合せを実施。

今日から通常活動の予定であったが、暑くて午後2時頃に終了した。里山Gは里山林のNo.9区画の整備、伐倒、藤棚の支柱立て、薪割り。エコGは鹿除け対策と草刈り、大根の種播き、ピーマンなど野菜の販売を行う。景観Gは彩の森の草刈り、竹林の整備。花班は名札に防腐剤を塗る。ビオ班は近大生と田貝の生育調査、ビオエリアの草刈り。パトロールGはイベント準備、観察路整備など。果樹Gは、実りの森の除草、栗の収穫などを行った。

9月17日(土) 曇り 親子40名 会員24名

曇り空の中、佐保台小学校放課後教室への参加者と会員関係参加者計40名、当スタッフ24名でのイベント「わくわく！ ドキドキ！ お山を歩こう！」を開催した。里山の10ポイントのスタンプラリーコースを巡り、里山の自然観察、クイズなどを楽しんでいた。

エコファームグループ



景観グループ

◆ 緑のカーテン

小山 喜与男

苦瓜(ゴーヤ・蔓荔枝)の苗を植えたのは去る五月二日であった。真夏の直射日光を遮る手立てにと苦瓜を思い立ったのは、エコファーム農場で苦瓜植え付け時、交わした仲間の雑談から得たものだった。世に謂う「緑のカーテン」である。

真東に対峙する我が家の硝子障子(縦二米、横一・六米)の窓はシャッターを挙げるや強烈な日差しが目を射る。これを苦瓜で和らげよう。窓際の狭い場所に苗を三本、「蔓ものネット」を窓一面に張り、成長を待つ。やがて脇芽を出し、「ジャックと豆の木」を想わせるような蔓がネットを這うように登っていく。

苦瓜の成長を毎日看ていると今迄気付かなかった姿が顕れだした。葉は巻きひげと対生し、ひげと蔓が絡み合いつつネットに巻きつき、カーテンの形を整えてくる。

花の変化も面白い。毎朝一斉に黄色の顔を見せる雌花雄花共に上向きに咲き、雄花は一日花で命は短い。雌花も一日で閉じはするものの、実が成熟するにつれ、下向きになり臍の緒のように萎れて老残の身を晒す。カーテンの役目は葉が主役、向日性の大型(直径十五糎)で掌状分裂し、折り重なって陽光を拒み緑陰を成す。但し一種独得の異臭はいただけない。

ところが蟲も好き好きで蔓に列をなして身の丈六耗位の昆蟲が目についた。早速「琵琶湖博物館」に走った。生憎、担当者不在で要を得なかったが「ツマキヘリカメムシ」の仲間であろうとのご託宣であった。

七月中旬、健気にも一本の実が食べ頃を迎えた。ゴーヤチャンプルを所望した。俎板に苦瓜の皮の突起が転がっている。「苦瓜を取ったの」と宣った。苦瓜は苦みが「命」だ。嗚呼。

◆ 夏の西池エリアの活動

羽尻 嵩

夏の西池エリアは睡蓮・蓮・薬草園・湿地などで、花が咲き乱れて心を和ませてくれた。

8月の「夏だ! 休みだ! 里山で遊ぼう! ②」に向けて参加者が通る通路を中心に草刈りをする。しかし、草を刈りすぎると昆虫やカエルなどの住処を奪うことになるので注意して刈る。西池にはアオミドロが浮いている。貝の育種のためには水の富栄養化が必要だが、アオミドロなどの藻類がはびこり、見てくれも水質も悪くなることもある。やはり自然は手強い。

今年のならやまの夏も、この相反する生態系のバランスを管理しながら活動した。

7月7日 ザリガニはまだ少ない。田中さんは葦を刈取り、それを天日で乾燥させていた。後日、これをドジョウ池の上の池に入れた。ドジョウ池には腐葉土も入れており、栄養が行き届いたのか貝が大きくなっている。

7月14日 モンドリにかかるザリガニが急に増えた。繁殖が始まったようだ。せっせとザリガニ取りに励む。

8月4日 8月末のイベントに向け、草刈りをする。夏の草は手強い。すぐに伸びる。

8月18日 ドジョウ池の貝の一つが死んでいて貝殻に歯形のような穴が空いていた。アライグマの仕業とのこと。また、敵が増えた。近畿大学の担当の方が、西池に田貝育種用の板の囲いの状態を調査した。状態が良ければ、西池で田貝の試験的な育種を始める予定。



8月25日 ザリガニ 37匹を殺処分。そして、イベントに向けて池の周辺を整備する。

夏だ！ 休みだ！ 里山で遊ぼう！ ②レポ

田中 善英

8月27日「夏だ！ 休みだ！ 里山で遊ぼう！ ②」が開催されました。このイベントは「奈良県山の日川の日」、Green Gift 地球元気プログラムとの協賛で行われました。

8時になるとイベントに参加するスタッフ、30名が集まり、準備開始。まず、今日一番の大仕事のテント設営を開始。何とか形になったら、次は奈良県の旗、Green Giftの旗、奈良・人と自然の会の旗を立て、受付の準備、駐車場の誘導標識などの準備が順調に進んでいきます。まだ、準備が終わらないのに8時30分になり、参加者の自動車が駐車場に現れました。

受付開始。子ども16名、保護者12名、計28名の参加者を迎え、班分けをして目印のカラーテープを体に貼付けてもらいました。



9時、担当幹事の山本さんの司会で開会式が始まりました。千載会長の挨拶に続いて、今日のスケジュール、安全

講話、そして山に棲む危険性生物、植物の説明などを行いました。



9時15分、2つのグループに分かれて、里地遊びの開始です。1班は竹林遊びに出発。竹林の中で、竹の伐倒を体験、

次に緑陰広場に移動して、竹切り体験、竹を使って花立てや貯金箱を作りました。他の1班は



西池での水生生物観察に出発。西池の回りで池に棲んでいる生き物の説明を聞いてから、いよいよ、全員で魚取り網を持って池の周りに集合。池の中

や近くの水路に網を突っ込んで生物を採取、そ

れから網に入った生き物を水槽に移して観察。これ何だろう。なんだか楽しそうです。あっという間に30分が経過し、ベースキャンプに戻ります。

10時、里地遊びの後半開始。竹林遊びと水生生物観察を入れ替えて楽しみました。



10時45分、休憩を挟んで里山遊びの開始です。全員でロープを伝って急斜面を登りました。登った後は、2班に分かれて、1班は里山遊び、もう1班は里山散策に出発しました。里山遊びは



山の材料を使ったいろいろな遊具を使った遊びでした。その間、保護者と見守り隊は日陰で風

に吹かれて一休みです。

少し遊んでから、里山散策に出発。途中で“コシダのピョン”で遊び、展望台へ。遠くに平城宮跡の大極殿が見えます。ここが平城京の北側にあって、平城京が出来た時からある山であることを実感した瞬間でした。それから、キノコのお話を聞き、シイタケを栽培している所を見学して学びの広場に移動し、里山での活動が終わりました。学びの広場の機関車に乗ったり、トカゲや虫を追いかけたり。子どもは元気です。大人は元気な姿を眺めながら、ホット一息。

一息ついてからベースキャンプに移動して



閉会式。竹で作った遊具の実演で盛り上がりました。天気にも恵まれた楽しい一日でした。

自然観察会報告  
初秋の歌姫街道

富江 文雄

9月12日(月)近鉄京都線平城駅に9時集合。14人の会員と田代先生を入れた15人で時間通り自然観察会に出発した。成務天皇陵の横から観察を開始、ウラジロが繁茂しているのを見る。ウラジロの葉は巨大な複葉で完成するのに5~6年掛かる。シダの場合見えているのは‘葉’の部分で茎はごく小さくすぐに根になる。



(ウラジロの群生)

ウラジロと少し離れてコシダの群生も見られた。この御陵の堀に水草の一種‘ガガブタ’が白い花を咲かせている。この花はメシベが長いタイプ(長花柱)と短いタイプ(短花柱)があり、株によって違うので自家受粉を防いでいると考えられる。名前の割には可憐な花だ。ここで注意点として、草花の名前は一般的にカタカナを使って表現する。漢字を使うと混乱する事が多い為である。

次に日葉酢媛命陵を通り、瓢箪山古墳から塩塚古墳をめざす。葉柄の長さが違うクサギを見た後、ツユクサの花が‘心’の字に似ているのを観察。メシベが中央にあり色の違う3種類のオシベあり、黄色いオシベには稔性がないと考えられている。栗の葉とクヌギの葉が似ている、その違いを解説してもらう。

ヘクソカズラは葉をちぎってもむと、きつい臭いを発する。花はその形から‘やいと花’とか‘サオトメ花’と呼ばれる。花冠の中に5個のオシベと先が二本に分かれたメシベが入って

いる。

歌姫集落の中にある神社でトイレ休憩。天気予報で35℃以上になると言っていた通り急激に暑くなった。神社の境内にオシロイバナが群生していた。

熟した実は黒いガクの変化したものに包まれているので偽果と考えられ、中を開



けると白い胚乳がおしろいのような粉状になるので、オシロイバナと呼ばれるようになったらしい。外来種である。

集落の出口でクリスマスローズの袋果を見る。次にサルスベリの花を観察。花びらが6枚でオシベに長短2本あり、共に稔性があり、なぜかは今のところ不明。カラスウリの花は夜に開く。磐之媛命陵近くに屋根のついたお地蔵さんがあり、その腹掛けをめくると白いものがたくさん見える。これらはヤモリの卵殻で、不思議なことに一年中いつでも見られる。



(参加者の集合)

ウナベ古墳を通る道が通行止めの為、水上池の北側で終了した。

次回は10月17日(月)馬見丘陵公園での観察会になります。引き続き田代先生に講師をお願いしております。

わくわく！ドキドキ！お山を歩こう！  
イベント・レポ

山本 隆造

9月17日(土)佐保台小学校放課後教室として「わくわく！ドキドキ！お山を歩こう！」を開催しました。参加者は佐保台小学校関係35名(子供17名、保護者および放課後教室スタッフ18名)、会員家族5名(子供3名、保護者2名)の40名を迎えての開催でした。

千載会長の開会挨拶、イベント内容の説明、安全についての注意、記念撮影など開会セレモニーを終え、4班に分かれて9時45分からスタンプラリーの始まりです。



まず1番、エコファームで野菜の名前当てクイズ。落花生、ニンジン、ゴボウなど。落花生の実のつき方は保護者も含めてみんなへえ～。

2番、薪割りに参加。斧や機械での薪割りを見てもらいながら昔の話など。スタッフ介添えのもと薪割り体験してもらうのが好評。

3番、昆虫クイズ。菊川さんが用意した写真を一人ずつ見せ名前当て。トンボ、ハチ、カマキリ…と大きな声で。大正解！はいスタンプ。

4番、シダの飛行機飛ばし。ウラジロの葉を飛ばしますがなかなかうまく飛んでくれません。大きなウラジロの葉が珍しいのか何度も挑戦。

5番、キノコの話。名札を付けたたくさんさんのキノコを見て、森の中にこんなにたくさんさんのキノコがあるんだあ～。写真でツキヨタケやカエングダケのお話も。

6番、コシダのぴよんと大極殿、大極殿の見える丘で、事前に用意したコシダの軸を指先でぴよん。面白くて飛んだ軸を探しては何度も何度も。大極殿を見ながら水分補給としばしの休憩。



7番、アスレティック、ロープを使いながらの丸太渡り、やや不安定なブランコ、ダルマ落としなど、放っておいても子供たちが遊んでくれるので、時間調整にはうってつけか。

8番、ビオトープで水の中の生き物観察。たらいに入れた、メダカ、エビ、ザリガニなどに興味津々。ザリガニに触れるのが「ムリー」と言っていた子も最後には恐る恐る触れられて満足顔。



9番、ジュズ玉と小川。ジュズ玉の実がたくさん付いています。この実を持って帰ればお家で育てられますよ～、お持ち帰りOKです。すぐそばの小川で笹舟を浮かべます。流れが速く笹舟がすうーと流れていきます。

最後は10番、竹林をざわざわ歩く。きれいに整備されたマダケ林の中を歩きます。竹細工など竹の利用、成長の速さ、マダケとモウソウチクの違いなどを聴きながら。

みんなの首にかけたスタンプカードに10個のかわいいスタンプがそろい、完成したカードを満足そうに眺めながら大事にお持ち帰り。

最後に子供たちの声を聴く。みんな面白かったあ～、楽しかったあ～と満足そうな笑顔。

予定通り12時過ぎにはイベントが無事終了しました。子どもたちへのお土産はジュズ玉ブレスレット、鹿の折り紙。24名のスタッフには子供たちの元気と笑顔が何よりの一日でした。

## 子猫のミルクボランティア

坪井 都子

私は気がついた時から猫が好きです。幼い時タマと言う賢いメス猫がいて、毎年1回だけ子猫を生んでいました。その当時、避妊手術とかの発想はなく、その都度、貰い手を捜すことの繰り返しでした。でも子猫の可愛さは、幼な心に刷り込まれていました。

大阪で就職して、初めは4畳半のアパート生活、当然飼育猫禁止です。荷物が増え何回か転居をする中で、今は奈良のささやかな一戸建てで3匹の猫と同居するまでになっています。

2019年12月、国内の猫の殺処分件数は1年間で成猫10,523頭、子猫20,234頭でした。子猫の殺処分は成猫の2倍です。そこでせっかく生まれた子猫の命を救おうという活動が「ミルクボランティア(子猫育成活動)」なんです。子猫は数時間おきの授乳や排泄の介助が必要で、成猫の世話に比べてとても手間がかかります。動物愛護センターや保健所に収容されても人手がなく細やかなお世話はできません。その結果、収容後すぐに処分されてしまうこともあるのです。

ところで、奈良市は3年連続「犬猫殺処分ゼロ」を達成しており、全国的にも画期的な取り組みと言えます。これを実現するためには、まず地域に犬や猫の保護団体が確実に存在していることとミルクボランティアが必要です。

私は今、奈良市保健所の子猫の「ミルクボランティア」に登録しているので、子猫に絞って話を進めます。2か月未満の子猫の場合、母猫がない状態で拾われ、保護されるため、母猫の役目を人が担います。



その具体的な仕事は

- ① 生後2~3週間までは、2~4時間おきのミルクの授乳。哺乳瓶で飲めない場合は注射器状のシリンジを使います。
- ② 母猫がお尻を舐めて排泄をさせるように、お尻をトントン刺激して排泄を促します。
- ③ 生後1か月頃から歯が生え始めてきます。しっかりミルクが飲めてある程度体重が増えてきたら、離乳食をあげます。ミルク以外の初めての物なので、なかなか食べない子もいます。
- ④ トイレ砂で排泄できる訓練も必要です。
- ⑤ 日々の体重チェックと体調管理は欠かせません。特に子猫はよく下痢や風邪や病気をします。その場合は病院に連れていきます。

ミルクボランティアをするには、条件があります。それは2~3時間おきでのお世話を必要とする子猫もいますので基本24時間、もしくは昼間でも半分以上は在宅時間が取れることです。8時間余の定職のある方はまず無理です。



私のミルクボランティア経験は、まだ5回しかありません。一番最近の子猫が「いいちゃん」です。(写真左)この子は食が細く偏食。預かった時、生後15日目なのにたった213g、下痢などで痩せていき、病院に通うこと4回。どんどん食べなくなり、強制給餌もしました。生後34日目体重185g、命の危険も感じたので保護団体のベテランの方に託しました。ゆっくりこの子のペースに合わせて給餌もされ下痢も治って元気が戻り、体重も200gを超えました。命が助かって本当に良かったです。私の少ない経験の中で一番大変なケースでしたが、可愛さはそれ以上のものです。

これからも必要があれば「ミルクボランティア」を引き受けたいと思っています。せっかく生まれた“小さな命”を一つでも救えたらとの思いから。





## 「できた！ 頑張ろう！」 —子ども工作教室—

鈴木 末一

佐保川地域ふれあい会館自主事業である「夏休み子ども工作教室」が、2年ぶりに実施された。前は、コロナ禍のため参加者は3人であった。ごく少数だからといって中止する訳にはいかなかった。

今年は、新型コロナウイルス感染者数は、前回とは比較にならない多さではあるが、最大限の予防措置を講じての開催となった。子ども会の役員の方々の呼びかけに、参加者数も多くなるかもとのことだった。やはり予想通りに21人という多さとなった。ソーシャルディスタンスなどの完全確保のため、2班編制による時間差を設けて実施することになった。

さて、参加者の構成が、年少組から5年生までという幅の広さである。どのような作品に取り組んでもらうのがベターだろうか。そして、材料の準備は、どのような段階まで進めておくのがよいだろうか。思いを巡らす日々が続いた。その結果、ポイントを2つに絞ることにした。一つは動くもの、もう一つは音の出るもの、この2つに絞った。ネットで検索してみると、沢山の題材が目飛び込んでくる。参加者募集の案内原稿の締切日が迫ってくる。子どもたちにとって、新たな発見というか、気づきに繋がることや探究心などをかき立てることなどにポイントを置くこととし、今年は、①ガリガリヘリコプター、②うぐいす笛の2つに決めた。①では、骨格の竹をこすり合わせてメインローターとテールローターの2つのプロペラを回転させる。その仕組みは、大人でも容易に解らないだろう。まして子どもたちには、不思議の世界にぶつかることは間違いない。②では、吹き口の竹の位置を少しずつずらしながら吹いてみると、こんな簡単に竹を輪切りしたものの組み合

わせていろんな音が鳴るなんて、と興味津々。良い音が出ると、しばらくの間、子どもたちは吹きやめないだろう——こんなことを考えながら材料の準備にかかった。

ガリガリヘリコプターは11個、うぐいす笛は2個の素材ででき上がるようにした。時間の関係もあるので、基本的な加工は、全てすませておいた。

ところで、これだけではすまない。学習指導要領では、一人一人が主体的に考え、創造的に発想したり、構想したり表したりできることを目標としている。このことを踏まえて、子どもたち自身の「こんなことをやってみたい」「もっと工夫したい」という思いから活動が始まり、その思いを基に工夫して表現しようとする発展的学習の機会となるようにしなければ・・・。

同時に、子どもたちへ「美しさ」「良さ」「面白さ」といった価値の押しつけにならないこと。主体的な学びの意欲が生まれるように、との配慮もしなければならぬし・・・。



さて、いざ作ってみると、ガリガリヘリコプターは、なかなか上手くプロペラが回らない。一人一人手ほどきする。摩擦棒の動かし方を工夫して、回り出すと歓声が上がる。うぐいす笛は、直ぐに音が出せた。しばらくの間、あたりで「ピーピー」と音が鳴り止まない。

プロペラが回り、笛の音が鳴り、子どもたちの達成感に満ちた表情を見届けて、ほっと安堵する。

さて、これからは次回に向けた題材探しだ。

**クリの病害虫-2 (病害虫講座—47)**  
**樹上のイガを狙ってお先に**

木村 裕

樹上でまだ青いイガに包まれた実をねらっていろいろの害虫がやってきて、私たちが拾い集める前に食害を始めます。

収穫した果実は乾燥するとだめになるので、貯蔵保管は水に漬けるか、湿った砂に埋めます。

**【ネスジキノカワガ】**

6~7月頃(かわいらしいイガが大きくなり始めた頃)、イガの上に黒褐色の糞の塊が見つかることがあります。この蛾の幼虫がイガの中に潜りこんで内部を食って、糞を外に排出したものです。まだ中身も充実しておらず美味しくないとと思うのですが。発生数も少ないので実害はないでしょう。



**【モモノゴマダラノメイガ】**

秋、クリが熟してイガの落下が始まって果実を拾い集めると、果実に丸い孔があき、中身がすでに食い荒らされています。大きな実を見つけたと思って先客がすでに食べたあとです。

イガをよく見ると、口を開いたイガの中に果



実が2~3個詰まっていますが、その果実の隙間に褐色~黒褐色の糞が糸で綴られておればすでに先客が入り込んでいます。

淡紅色で黒い斑点のあるイモムシが住み着いています。穴のあいた果実は食用になりませんので被害甚大です。

**【クリミガ】**

果実の収穫時にはまったく被害症状は見えません。しかし収穫して2~3日置いておくと、果実の表面が淡褐色の粉まみれになっていることがあります。よく見てください。果実の褐色皮の部分と下の座の部分の境に針で突いたような孔があり、そこから吹き出ています。収穫時にはまだ虫は小さくて目立たないので虫ごと食べている方も少なくありません。



**【クリシギゾウムシ】**

クヌギやコナラなどのドングリから白いウジが這いだしているのを見たことがあるかと思えます。この虫と同じ仲間の虫が栗の実にも入っています。かなり高い頻度で。収穫直後では虫は小さいので気がつかず、そのまま皆さんの胃袋に収まっていることでしょう。害はありませんのでご心配なく。





# Gallery ならやま



パステル画 落ち葉

有元 康人



竹細工 シーサー

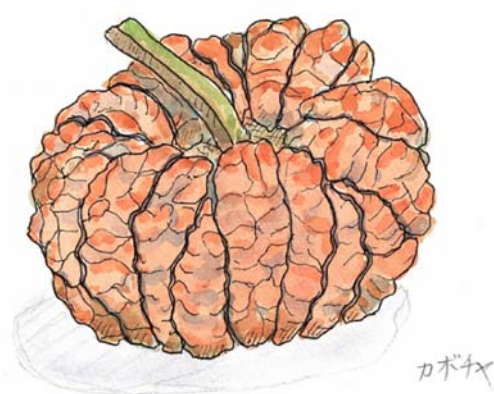
鈴木 末一



陶芸 花器 西岡 正平  
(白土にしのご模様をつけて  
透明ルリ釉を施釉 酸化焼成)



写真 大極殿を見守る龍神  
國方 まり子  
(2022.8.8撮影)



スケッチ ならやまのカボチャ  
梨本 哲  
(2022.7.21 エコファーム収穫)

掲載作品はホームページではカラーでご覧いただけます。皆さまからの作品のご応募をお待ちしております。絵画・陶芸・写真・墨絵・手芸・パッチワーク・切り絵・自然工作など。

# 行事案内 Part1



## 朝日親と子の自然環境教室のご案内

青木 幸子

シニア自然大学校主催、朝日新聞社・朝日小学生新聞後援の講座を、当会が実施主体となつてならやまで開催します。

この講座は「植物や生き物たちの不思議さ、自然環境の大切さを学ぶ体験講座」をテーマに毎年企画され、今年も昆虫観察や淀川の治水について(シジミ採りも)、また地引き網体験や冬鳥の観察など幅広い活動を、前期、後期に分けて開催されています。

今回も後期の講座の一つとして「里山体験と稲刈り体験」を実施するものです。

内容は、特に稲刈りを中心とした農事と、里山での活動を通して里山って何? を学習していただきます。

### 実施要領

1. 日時: 10月16日(日) 10:30~15:30  
前日、奈良県北部の降水確率が50%以上の場合は10月23日(日)に順延。
2. 主な内容:  
午前: 稲刈りを中心とした農事体験  
午後: 里山体験と里山遊び
3. 参加者:  
朝日新聞社・朝日子供新聞を通じ事前に応募された近畿一円からの親子29組  
シニア自然大学校よりスタッフ11名

コロナ対策を行いながら、里山での活動を体験していただきます。

皆さまのご協力よろしくお願いたします。



## 自然教室チームだより

### 秋の馬見丘陵公園自然観察会



富江 文雄

秋の中頃を迎えて丘陵公園での観察会になります。馬見フラワーフェスタは前日に終わっていますが全開のダリア、コスモス等秋の花が溢れ、紅葉したコキアも見頃を迎えています。

冬の小鳥や水鳥も帰ってきている頃です。上池/下池、巢山古墳堀とその周辺で多数見られることでしょう。

今回も大阪自然史博物館友の会副会長の田代先生にご案内いただきます。

季節も良くなりましたので、ゆっくりと観察する為、午後2時半までの予定となっておりますが、コロナ感染症対策としてマスクの着用を励行して下さい。

雨天時の実施有無は、前日午後7時前 NHK 天気予報で奈良県北部地方の降水確率60%以上の場合は中止とします。予備日は設けません。

### 記

日時: 2022年10月17日(月) 9:30  
集合: 近鉄田原本線池辺駅改札を出たところ。  
持ち物: 飲み物、お弁当、あればルーペ  
双眼鏡

観察ルート: 池辺駅—緑道エリア—北エリア—中央エリア(下池/上池)—中央南口から引き返して池辺駅で解散(14:30)

担当: 富江文雄  
山本美智子



# 行事案内 Part2

## 芋掘りイベントのご案内



### 秋の実りだ！ お芋を掘ろう

富江 文雄

酷暑が過ぎようやく秋が感じられるようになりました。コロナ禍に加えて、猛暑の中、又新たに‘鹿’による食害という問題を抱えつつもエコグループが頑張りました。

限られた畑ですが、十分に育ってくれた芋が早く掘り出してくれといわんばかりです。

恒例の芋掘りイベントは子供たちも楽しみにしていることでしょう。

時節柄、内容を縮小して(午前中のみ)、コロナ対策を講じて開催します。

奮ってご参加ください。

記

1. 日時：10月29日(土) 10時—12時  
#雨天(前日午後7時前の天気予報で奈良県北部地方の降水確率50%)の場合は翌週11月5日(土)に順延
2. 場所：ならやまベースキャンプ
3. 参加者：子供たちと保護者
4. 内容：芋(サツマイモ)掘り、芋の話、里山の話。
5. 持ち物：飲み物、軍手、スコップ
6. 服装：運動靴、長袖シャツ、長ズボン
7. コロナ対策：マスク着用、対面で大声で話さない。

担当幹事：太田、豊田、富江



## 月例研修会のご案内



### 錦秋の天川・みたらい溪谷・龍泉寺の紅葉と散策

富井 忠雄

みたらい溪谷は大小様々な滝と巨石や奇岩、底まで透けて見えるエメラルドグリーンの水の流れ、秋にはモミジ、カエデなどの紅葉・・・滝、岩、紅葉と素晴らしい溪谷美を堪能できます。ご一緒に楽しみましょう！

今回、みたらい橋から観音峰登山口まで1時間ほど散策いたします。その後<sup>えんのぎょうじゃ</sup>役行者が開いた龍泉寺の紅葉、天武天皇時代に創建された天河大辨財天社を散策いたします。

コロナ対策を行いながら、マイクロバス27名乗りのところを21名で募集いたします。

皆さまのご参加お待ちしております。

記

- 日時：令和4年11月1日(火) 雨天実施  
 集合：近鉄奈良駅前奈良商工会議所前 8時  
 持物：飲物、雨具、ハイキング靴、ストック  
 会費：6000円(バス代・昼食代など)  
 申込先：富井忠雄  
 行程：奈良商工会議所前 8時→京奈和道(御所南IC)→黒滝村道の駅→天川みたらい橋から約1.8km 観音峰登山口まで散策→龍泉寺→13時昼食(とり長)→女人結界門→ごろごろ水→天河大辨財天社→御所南 PA→京奈和道御所南IC→近鉄奈良駅前 17:30頃



**2022年9月度 幹事会報告**

- I. はじめに
    - ・8/27 GG イベント アンケートで忙しかったという意見もあり、半日ではもう少し内容を考えるべきかもしれない。
  - II. 会計、総務部より
    - ・会員動向：153名変化なし
    - ・会計報告：子ども用ヘルメット購入他
  - III. 活動・行事関係
    - ・12月幹事会は12/24(土)14:00~とする
    - \*ならやまプロジェクト関係
      - ・今年植樹した場所の除草が必要
      - ・東池管理はエコGが水位、堤防の状況を管理する
      - ・9/15より通常活動9時~15時とする
      - ・イベント提供用カブトムシはならやまプロジェクトとして担当を決めて飼育する
    - \*イベント関係
      - ・9/17 わくわくドキドキお山を歩こう②  
対象：佐保台小と会員関係者50名
      - ・10/16 朝日親と子の自然環境教室(1日)
      - ・10/29 芋掘りイベント(午前中)
      - ・本年度予定の午前中のイベント3件についてスタッフに弁当を提供する
  - IV. 企画、助成金事業案件
    - ・助成金事業はいずれも順調に進捗中
    - ・新たな助成金申請は来年度以降の活動目標を十分に協議したうえで考える
  - V. 喫緊、提案事項
    - ・クビアカツヤカミキリの被害はなかった
  - VI. 広報関係
    - ・会報誌のPDF配信定着。印刷物不要の方には印刷配布はしないことにする
  - VII. 報告、連絡事項、その他
    - ・月例研修会：11/1 天川みたらい溪谷ハiking
    - ・自然教室：10/17 馬見丘陵自然観察会
- 次回 9/27(火)14:00~奈良市中部公民館



夏の暑さと体力低下を理由に、庭の掃除や草取りを止めていた。暑くて雨も少ないのに、草や木々は元気で、「あっ!」という間にジャングル状態になった。

藪の場所になって、いつもと違う虫や爬虫類が出現したのだ。何年も聴いたことも無かった「マツムシ」の声、今まで見たもともなかった「テングスケバ」「クダマキモドキ」そして「カナヘビ」などが現れ、生き物の楽園になった。

きれいな庭は必ずしも生き物の住みやすい場所ではないのだ。自分だけが掃除をすることで自己満足していたのか？



しばらくジャングルにしておこう。

\*\*\*\*\*

**11月ならやま活動&行事予告**

- \*ならやま活動(木)3日 協働活動日
- \*11/1 月例研修会 天川みたらい溪谷ハiking
- \*11/22 奈良公園 紅葉狩り

会員動向(敬称略)  
<退会者> 9/11 笠井 文夫(ご逝去)

**9月号奈良学クイズの解答**  
問1. 別格 本山 喜光寺 問2. 行基  
問3. 河辺隆光 ※多数の皆さまにご応募いただきありがとうございました。

発行：奈良・人と自然の会  
URL : <http://www.naranature.com>  
編集代表 Mail: [editor@naranature.com](mailto:editor@naranature.com)  
編集委員：青木(幸)・青木(芳)・尾崎・千載・田中(善)・戸田・豊田・増田

写真説明：今年は大豊作です。大粒のクリを果樹グループが収穫しています。